

第3回慈愛会学会学術集会 案内ポスター決定!



第3回
慈愛会学会
学術集会

地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築

演題募集期間：令和4年11月15日～令和5年2月28日
大会長：野村 秀洋（介護老人保健施設愛と結の街施設長）
開催日／会場：未定

【連絡・問い合わせ先】
公益財団法人慈愛会
慈愛会学会運営委員会事務局（教育開発センター）
TEL:099-263-8151(内線2060) FAX:099-263-8161
E-mail: jgakai@jiaikai.jp

鹿児島県に必要な人財と法人を目指して

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁



日本医師会の常任理事に就任してから早くも半年が経過しました。当初想像していたよりもかなり忙しく、11月に鹿児島に帰ることが出来たのは5日程度しかありませんでした。新型コロナ禍が続く中、慈愛会のことは名実ともに、全面的に慈愛会スタッフの皆さんにお任せしているところです。今年も当法人を支えてくださって心から感謝申し上げます。

さて、多くは東京の駒込にありますが日本医師会館に詰めて仕事をしていますが、週末は地方の医師会を訪れることも多く、新潟県、宮城県、愛知県、大分県と、全国8つのブロックに分かれている中で既に九州を含む4つのブロックにお邪魔しました。実際に現地を訪れて感ずるのは、それぞれの地域によって地域の医療事情は全く異なる事です。東北・甲信越地方は人口当たりの医師数が少なく、また、医療機関も少ないために官・民・医師会が協力して地域の医療を守るために知恵を絞っています。一方、一県に4つの大学医学部があり、医師数も多い東海地区は、医療機関同士が競合関係になることが多くその調整がなかなか進まないといった話が聞かれました。医療提供は西高東低と言われますがまさにその通りだと実感するところです。

日本全国地域の医療事情は異なりますが、そこで提供される社会医療保険制度は全国一律です。したがって、制度がその地域の事情にそぐわない形になっていたとしても、その制度に合わせた形で医療提供が可能な医療機関だけが生き残ることになります。自法人のポジショニング、自分の事業所のポジショニング、いずれも考えるときに外部環境と内部環境の両方を考える必要があると中堅管理職研修では述べていますが、改めてそのことを強く実感しています。特に、人口の一番多い関東地区と鹿児島県の事情は非常に異なるために、鹿児島県だけの外部環境で判断すると間違った判断となる可能性が高くなります。そのような意味では、私が中央に来たことで自法人をより客観的に見る事が出来るのは非常に良いことですし、その情報はしっかりと皆さんにもお伝えするのが私の義務になります。

幸い、第3次マスタープランを含めて、慈愛会が目指す方向は決して間違っていないと考えます。その中でこれから特に力を入れていかなければならないと考えるのが（1）慈愛会スタッフ一人一人の力を育て強化し、一人一人の評価をしっかりと出来るような教育・人事制度を確立すること、（2）スタッフ同様に、慈愛会のサービスを一度でも受けられた患者さん・ご利用者のプロファイルはしっかりと管理し、いつ来られても、どこにいてもしっかりと対応が出来る顧客管理システムを確立することです。いずれもすでに取り組んでいますが、国が進める医療DXを積極的に活用して、さらに歩みを加速して臨みます。少子高齢化の影響が特に早くから出ている鹿児島県での医療提供はさらに厳しくなりますが、当法人はむしろその中で存在価値が高まるポテンシャルを十分に持っています。

鹿児島と中央で好循環を築き、ともに頑張りましょう。宜しくお願いします。

2022 年秋の叙勲で 旭日双光章を受章して思う事

公益財団法人慈愛会

介護老人保健施設 愛と結の街 施設長 野村 秀洋



県医師会皆様のご推薦により今年度の秋の叙勲で旭日双光章を受章致しました。令和4年11月7日県庁にて叙勲伝達式で塩田康一知事より勲章と勲記が直接手渡されて、初めて叙勲の栄誉を自覚し、感激の極みでした。これも「ひとえに県医師会の会員の先生方及び慈愛会職員の方々のご指導・ご支援のお陰と感謝しております。ありがとうございました」。

顧みますといづろの慈愛会今村病院本院に昭和63年5月外科部長として就職し、今日まで30数年間にわたり、本院院長、分院（現今村総合病院）との統括院長、名誉院長（現いづろ今村病院）、老健（愛と結の街）施設長など務めさせて頂きました。感謝の気持ちで一杯です。

また同時に今回の叙勲もさることながら、深く印象に残っております出来事は、いづろ今村本院院長時代に県内で最初のDPC病院に選定され、急性期病院として、DPC病院を目指して努力してきた成果としての評価を受けたことでした。この結果が病院の収益を2~3倍に向上させる事となり、今の総合病院の移転・建築に繋がり、慈愛会の発展に貢献できたと自負しております。

またこの30数年間において、2012年4月に県医師会副会長に就任、今年勇退するまで10年間にわたり鹿児島県の医療の充実・発展に力を注ぎできました。現在は県医師会監事を務めております。県医師会の他にも、鹿児島県国民健康保険団体連合会、国民健康保険診療報酬審査委員会会長など31年間頑張っております。

今後もこの栄誉に恥じることはないよう一層精進致す所存です。ご支援のほどよろしくお願いいたします。





日本医療マネジメント学会 九州・山口連合大会を開催して

日本医療マネジメント学会第20回九州・山口連合大会大会長
公益財団法人慈愛会 今村総合病院 院長 帆北 修一

慈愛会の皆さんのサポートがあり、日本医療マネジメント学会第20回九州・山口連合大会を11月4～5日、かごしま県民交流センターで無事に現地開催する事ができました。今回のテーマを「医療マネジメントの維新 ～燃ゆる思いで～」といたしました。“維新（Restoration）”とは、“革命（Revolution）”とは意味合いが異なり、日本国の伝統に基づく“徳による進化”という意味があります。日本医療マネジメント学会の目的は、医療の質の向上を求めてクリティカルパス、医療安全、医療福祉の連携を3本の柱とすることです。

今村総合病院をはじめとして、公益財団法人慈愛会の皆さんのパワー・団結力の強さを感じた2日間で、ベクトルが同じ方向を向いていると感じた次第です。特別講演等・一般演題で約270名の方々に講演・発表をしていただきました。スタッフを含めて約900名以上という多くの方々に参加していただきました。

2019年6月に学会の話があり、今村英仁理事長に相談し、慈愛会全体でお引き受けする事といたしました。その後約2年5ヶ月の間、経営幹部・準備委員会の皆さんはじめ直接学会に関与していただいた多くの方々のご支援に対して御礼申し上げます。そして学会当日の病院を守っていただいた職員の皆さんに心より感謝申し上げます。

九州・山口連合大会という地方会で、鹿児島県医師会会長池田琢哉先生、前日本看護協会会長坂本すが先生、日本病院会会長相澤孝夫先生に特別講演を、鈴木康裕元厚生労働省医務技監、田中滋埼玉県立大学理事長、松田晋哉産業医科大学公衆衛生学教授、岡留健一郎済生会福岡総合病院名誉院長、尾形裕也九州大学名誉教授に招聘講演と教育講演を、さらに2つの教育セミナーと5つのシンポジウムで発表・議論していただきました。日本の医療を牽引されるトップレベルの先生方に講演をしていただき、一般演題でも多くの方が熱心に発表・議論されておられ、学会終了後多くの方々から非常に素晴らしい学会であったとの感想をいただきました。市民公開講座も鹿児島らしく前尚古集成館長田村省三先生に御講演していただきました。

“マネジメント”とは、「経営」や「管理」という意味で使われる事が多いですが、“マネジメント”の基本は他者への配慮・愛情（利他の心）とも言われています。今回多くの方々との出会い（邂逅・御縁）の機会をいただき、本当に実り多き学会を開催できたこと、そして慈愛会の皆さんの素晴らしさを感じた事に改めて感謝いたします。



開会式で挨拶する今村英仁理事長（左）と大会長の帆北院長



大会長講演



学会事務局からの感謝状

著名な先生方による講演



一般演題 — 慈愛会から 63 演題を口演発表 —



受付の様子



キッチンカーや 特産品販売の出店



クリニカルパス・企業展示



前日の準備・打ち合わせ



第3回慈愛会学会学術集会

学術集会テーマ 地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築

大会長 野村 秀洋

介護老人保健施設愛と結の街 施設長/いづる今村病院 名誉院長



第3回のテーマとして、今年度は慈愛会第3次マスタープランの初年度でもありますので理事長の基本方針である第2次マスタープランの目標「統合」を引き継ぎ、第3次マスタープランの目標「進化・深化」の5つ柱の1つ「地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築」を選ばせて頂きました。超少子・超高齢社会の到来における「人生100歳時代」「2025年問題」「2040年問題」を見据えた地域と共に歩む慈愛会(各事業所)の更なる発展を目指したいと考え、提案致しました。

多くの施設と様々な職種から多数の発表がなされ、学術集会を通して慈愛会内の連携をさらに強化していけることを期待します。皆様の発表で慈愛会学会学術集会を盛大に盛り上げていきましょう。

演題募集

演題登録基準(抜粋)

登録期間 2023.2.28まで

◆登録資格

演題発表者(筆頭研究者)および共同研究者は、公益財団法人慈愛会の職員に限りません。ただし、運営委員会が特に認めた場合はこの限りではありません。

◆発表内容

未発表の演題をご登録ください。カテゴリーは次の7つとします。

- (1)医療・福祉の質…専門医療 高齢者ケア チーム医療 感染管理 褥瘡対策 など
- (2)地域医療…在宅医療 訪問看護 地域連携 など
- (3)医療安全…安全対策 転倒転落 急変時の対応 インシデント分析 など
- (4)医療経済…診療報酬 組織運営 病院経営 コスト管理 医療情報 など
- (5)人材育成…職員の教育 クリニカルラダー スペシャリスト育成 など
- (6)働き方改革…業務改善 組織体制 超過勤務対策 QC活動 など
- (7)その他…医療マネジメントに関すること

◆登録方法

・演題登録申込用紙に必要事項を記入し、抄録原稿(本文1,000文字以内)及び利益相反自己申告書と共に慈愛会学会運営委員会にメールで提出してください。

提出先アドレス: jgakikai@jiaikai.jp

◆提出書類の様式等

・慈愛会学会共有フォルダ内に「演題登録基準」「演題登録申込用紙」「抄録作成要項」「利益相反自己申告書」を準備しています。ご利用ください。
・共有フォルダ内の、第1回・第2回の慈愛会学会抄録集(PDF)もご参照ください。

◆演題の採否/発表形式の通知

・演題登録締め切り後、2023年3月末をめどに、演題の「採否」及び「発表形式」を通知します。ご自身の「発表形式」をご確認の上、発表準備を進めてください。

◆慈愛会学会雑誌への掲載

・学術集会発表後、選出された演題の原著論文を「かごしま慈愛会ジャーナル」に掲載します。

問い合わせ先 慈愛会学会運営委員会 事務局(教育開発センター内)内線2060

住所: 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町6-4 かごしまオハナビル3階

直通電話: 099-263-8151 E-mail: jgakikai@jiaikai.jp

ポスター 優秀作品決定 (表紙参照)

今回は法人職員4名から6作品の応募があり、最優秀賞に奄美病院 徳田 建作介護福祉士の作品、次点の佳作として、谷山病院 有木 攻看護師、法人事業本部 池田 貴美子看護師の作品が選ばれました。11月14日に法人事業本部で表彰式を行い、今村 英仁理事長が入賞者に表彰状と記念品を授与しました。

徳田介護福祉士の喜びの声です♡♡♡

第3回慈愛会学会学術集会のテーマは「地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築」です。地域包括ケアシステムを考えた時に、医療・介護を必要とするすべての人々がいつまでも住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることが大切だと思いました。そこで、今回応募したポスターでは、地域に選ばれる病院として「地域」と「病院」が共に手を取り合っていくことをイメージで表現しました。

このような賞をいただけると思っていませんでしたのでとても感動しています。ありがとうございました。



受賞者を代表して奄美病院よりリモートで挨拶した徳田介護福祉士



表彰式参加者全員による記念撮影

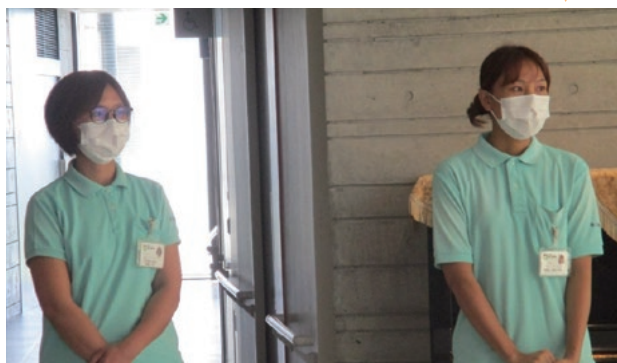


ミャンマー実習生が徳之島病院から新天地へ

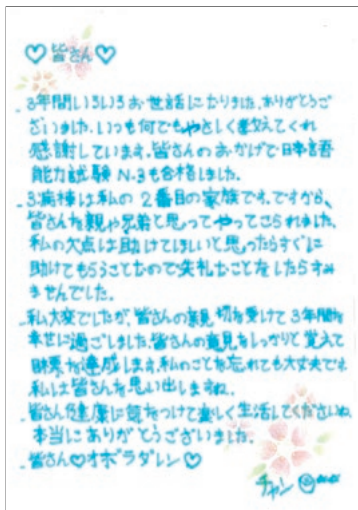
徳之島病院が2019年に初めて受け入れたミャンマーからの外国人技能実習生が、2022年9月に期間満了を迎えました。この3年で「介護技能実習評価試験（初級試験と専門級試験）」と「日本語能力試験（N3）」に合格したチャン ミャ ミャ トウンさんとミャ ミャ ウィンさんの2名は、名古屋市の特別養護老人ホームに介護職として入職し、新生活をスタートさせました。退職時のご挨拶と、徳之島病院 末満純一院長および生活担当スタッフからのコメントをご紹介します。

「都会でなく徳之島で実習できたことがとてもよかったです」

「みなさん優しく、たくさん助けていただきました」



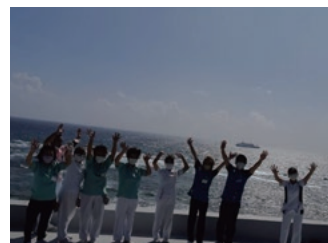
実習終了直前の朝礼でお別れのご挨拶



チャンさんから病棟スタッフへの
御礼のお手紙



旅立ちの日、病棟スタッフとともに亀徳港で



2人が乗船したフェリーを
病院4階ベランダから見送るスタッフたち

●ミャンマーさん達と過ごした3年間

「チョーソーバーデー」と迎えた、2019.10.23。あっという間の3年間でした。彼女たちの住まいが私のお隣さんで、夕食時になると“ぷ〜ん”とニンニクのいい香りが漂って来て、つつい焼酎がすすんだのが昨日のここのようです。

政情不安定な国の家族の事を思い我々には想像もつかない日々の連続だったことでしょう。3年経ってもなお国には帰れず、新天地へ旅立って行きました。「またねー」という気持ちで「行ってらっしゃい！」と送り出した、2022.9.13でした。

院長 末満 純一

●技能実習生との思い出

ミャンマーからの介護技能実習生生活指導員として活動し、苦慮した面は多々ありますが、本人たちの勤勉さ、“ママ”と呼ばれる親近感もあり、貴重な体験ができた3年間でした。

実習1年目の夏、超大型台風接近の際、台風初経験の実習生から「怖いです」と連絡が入り一緒に病院へ避難しましたが、“どこか旅行にでも行くの!?”と思う程のお泊まりセットを持参した時には苦笑でした。何度も寮に足を運び、独り立ちするまで時間を要したゴミ分別、3人が交互に体調を崩し、休日返上で付き添った病院受診も、単独で行えるまでに成長しました。他にも、空心菜やパパイヤなどの野菜を植え自給自足の支援行い、花見・登山・島内観光、地域住民との触れ合いなどスタッフも率先して誘い、楽しい思い出が沢山です。

4月はミャンマーのお正月で、スタイルが良くないと着こなせない民族衣装（ロンジー）を着て、手作りの定番ココナッツ菓子を配り挨拶回りをする律儀な国民性に感心しました。珍しい民族衣装の姿は人気で、沢山の写真が残され思い出がいっぱいです。

生活支援担当 3病棟介護福祉士 山上 清美



チャンさんを囲んでパチリ
前列中央：末満院長、同右：山上介護福祉士



いつも笑顔が絶えなかったミャさん



母国のお正月に合わせて、民族衣装で院内訪問。
左からチャンさん、チェリー・ティンさん（先に退職）、ミャさん

第11回 慈愛会

精神科リハビリテーション合同活動発表会

徳之島病院 作業療法士 城間 いずみ

2022年10月22日に徳之島病院主催にて実施しました。コロナ禍により各施設との交流が少なくなっている中、カメラを通して懐かしい方々と顔を合わせることができて嬉しく感じております。

今回のテーマは「QOL」に着目しており、私は身体への取り組みについて発表させて頂きました。長期入院の高齢者が多くなる中で、コロナによる追い打ちでさらに自室から出る機会が少なくなりました。取り組みを通して少しずつではありますが、介助のし易さや移動が楽になり最近では散歩や外出の機会も得られ、患者様が前向きな気持ちになってきているように感じます。

発表の中で、作業療法士ならではの視点による仕事内容の分析や、コロナ禍の環境に合わせた活動の模索など、今後もウィズコロナを見据えた柔軟な対応が患者・スタッフ双方にとってのQOL向上につながっているのではないかと考える良い機会となりました。



第16回 慈愛会 画像診断部合同研修会

今村総合病院 診療放射線部 統括技師長 恵 智徳

2022年10月29日、今村総合病院で開催しました。慈愛会 今村英仁理事長臨席のもと、いづる今村病院、今村総合病院、谷山病院、慈愛会本部より、医師、診療放射線技師、事務、計36名の参加がありました。

『被ばく線量管理の現状とシステム運用について』のメーカー講演(Zoom)にはじまり、一般演題が6演題あり、検診の腹部超音波、乳腺撮影、胃透視・造影CT・被ばく相談・放射線治療品質管理といった、多様で専門性の高い発表がありました。また新入職員等の自己紹介が行われ、最後に今村理事長の講評・総括を以て研修会は成功裏に終了いたしました。

今後も検診、画像診断、放射線治療領域の更なる質の向上を図っていくために、ジェネラリスト・スペシャリストの育成を継続的にいき、地域に貢献できる慈愛会画像診断部を目指してまいります。



第12回 慈愛会 薬剤部合同研修会

慈愛会薬剤部 統括部長 吉永 浩之

2022年11月12日にかごしまオハナビル3階大会議室にて会場参加をメインに一部WEBを利用して開催いたしました。今村英仁理事長、法人事業本部の皆様にも参加いただき、慈愛会5病院薬剤部を合わせて参加者は総勢53名となりました。

今回12回目を迎えた研修会は統括部長の「医療機能評価における薬剤師の視点」の演題に始まり、各病院からは8演題の研究発表がありました。薬局長から1年目の薬剤師まで日頃から取り組まれている業務や研究内容が様々な立場から発表され、熱心な質疑応答が行われました。研修会を重ねることにより慈愛会薬剤部の各病院の取り組みや様々な活動が見え病院薬剤師としてのスキルアップと、慈愛会薬剤部全体の質の向上に繋がっています。

最後に今村英仁理事長より講評・総括を頂き研修会は成功裏に閉会することができました。今後も地域包括ケアシステムにおける病院薬剤師として多職種との地域連携の推進を図っていきたいと思います。



第11回 慈愛会

リハビリテーション合同活動発表会

今村総合病院 言語聴覚士 若松 藍

2022年11月19日に、会場(メイン会場:かどしまオハナビル、サテライト会場:今村総合病院)とWEBとのハイブリッドにて開催し、会場参加は71名、WEB参加は30名程度でした。

慈愛会リハ合同活動発表会は11年目を迎え、本年度より3年間で1クールとして『連携』をテーマに開催していく事になりました。2023年度は施設間連携、2024年度は地域連携を予定しています。

本年度は多職種連携をテーマとして、1セッション(3演題)では症例報告中心による連携、2セッション(3演題)では、産後リハや広報活動などの新たな取り組みによる連携の研究発表があり、活発な質疑応答が行われました。あらためて多職種連携の重要性を実感することができました。

今後このような研究発表を継続し、慈愛会リハビリスタッフのスキルアップ、地域への貢献に繋げていきたいと思います。



第10回 慈愛会 臨床検査部合同研修会

いづろ今村病院 臨床検査技師 竹之内 敏典

2022年12月3日、いづろ今村病院をメイン会場にて開催しました。昨年と同様に、WEBとのハイブリッド開催とし、今村総合病院・いづろ今村病院・谷山病院のスタッフと慈愛会本部職員、計38名が参加しました。

慈愛会 今村英仁理事長の挨拶に続き、検体・生理・病理各部門の検査技師が実際の症例も交えながら4演題発表を行いました。検査業務だけでなく患者様の病態、依頼医の目的など専門分野ならではの視点はとても興味深いものでした。

アークレイマーケティング株式会社の神原浩先生の特別講演「いま改めて学ぶHbA1c 最新知見を踏まえて」では、基礎や変異ヘモグロビンをはじめとする異常検体の考え方について講演して頂きました。

最後に臨床検査部坂江清弘部長の講評・総括で研修会は終了致しました。

この研修会も10回目を迎えました。各部門・各病院が連携してスキルアップを目指しながら、技師会や学会などを通じて外部にも発信したいと思います。



じあいかい TOPICS

「心に効くらしく」♪ コンサート

徳之島病院

創意工夫いっぱいの秋祭り開催



2022年9月22日、徳之島病院外来ホールにて、プロ奏者によるミニコンサート「心に効くらしく」が開催され、入院患者さんやスタッフ、デイケア利用者さんも10名ほど参加されました。朝から「ピアノは誰が弾くの?」とポスターを眺め心待ちにしている方、普段は音楽に関心を寄せない方がコンサート終了後ポスターを10分以上ジーッと眺めている姿が印象的でした。また「ベートーヴェンの『月光』が良かった」と満面の笑みを浮かべ感激している方もいました。「芸術の秋」を皆さんと一緒に堪能できました。

徳之島病院 デイケア室 屋 綾子



2022年11月2日、徳之島病院では病棟秋祭りが開催されました。コロナ禍の中、様々なことを乗り越え無事に開催できたことに嬉しい気持ちでいっぱいです。

手作りの射的や的当てなどを準備し、室内でも患者様が楽しめるようなレクリエーションを創意工夫して行いました。病棟ホールにて音楽に合わせ阿波踊りを上手に踊る患者様の姿や、最後には栄養科からプリンアラモードが振る舞われ、美味しそうに黙々と食べる幸せそうな表情も見られました。おかげさまで患者様や職員みんなが笑顔になれる温かな時間を過ごすことができました。少しでも早いコロナの収束を心から願っています。

徳之島病院 1病棟看護師 川野 彩華



【今村総合病院 電話交換係の取り組み】



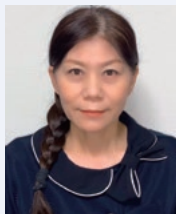
今村総合病院の電話交換は専門外来専属の電話交換2名を含め8名で構成されています。

急性期病院として受信した電話を、取りこぼすことなくどれだけ沢山お話しできるかが、私達交換の仕事だと考えていますが、素早く繋ぐことで突き放した印象を抱かれないように、フィロソフィの「感謝の気持ちを持つ」を忘れないよう心がけています。職場内で情報交換を常に密にして患者様を不安にさせないように、患者様、職場の仲間、に感謝の気持ちを持つことで自然と言葉使いも変わってきます。

フィロソフィにはどの項目も働く上で不可欠な内容なので、読み合わせを行い意識を高め温かい声かけで安心していただける電話交換を目指していきたいと思います。

今村総合病院 電話交換 岡元 美紀子

仕事を好きになる



院内のほとんどの部署へつなげる仕事を担っており、内容がわかりやすく正確な入電だけではないので、必要な情報を聞き取り判断し短時間で交換先を探す能力も求められます。厳しいご意見の内容等もありメンタル面で落ち込む事も少なくありません。顔が見えない為コミュニケーション能力のスキルアップが求められ日々迅速・丁寧・正確に繋ぐにはどうしたらいいか試行錯誤を重ねながらも悩むことが多々あります。そんな中フィロソフィの『仕事を好きになる』という項目が心に響きました。応対で『ありがとう』と言葉をかけて頂くと本当に嬉しく次への応対に意欲がわいてきます。創意工夫を重ね全力で打ち込む。仕事を好きになる。人を好きになる。そして大切にします。フィロソフィからの学びを仲間と共有していきたいと思っています。

今村総合病院 電話交換 大野 智子

冊子抜粋

第7項 仕事を好きになる

仕事をやり遂げるためには大変なエネルギーが必要です。そしてそのエネルギーは自分自身を励まし、燃え上がらせることで起こってくるのです。そこで、自分が燃える一番良い方法は仕事を好きになることです。どんな仕事であっても、それに全力を打ち込んでやり遂げれば、大きな達成感と自信が生まれます。その繰り返しの中で、更に仕事が好きになります。そうなればどんな努力も苦にならなくなり、素晴らしい成果を上げることが出来るのです。

こうした心境にまで高まって初めて、本当に素晴らしい仕事を成し遂げることができるのです。

在宅医療

リレーエッセー

9

円滑な人間関係を築くために

ヘルパーステーション結の街 介護福祉士 坂口 香美

訪問介護は、登録ヘルパーという独自の雇用形態をとっており、基本的には自宅から訪問先のご利用者の家に直接訪問し、終了後は自宅に戻るという直行直帰のスタイルで活動しています。そのため、事務所に来所して下さったときにしか直接コミュニケーションをとることができず、体調の確認や日々の出来事、訪問先のご利用者の状態やご自身の抱えているストレスなど、顔を合わせて話せることを少しでも聞き出し、一緒に笑ったり怒ったり泣いたりして少しでもストレスケアができればと心がけています。

介護の仕事全般に言えることですが、人と人とのつながり、信頼関係があってこそ円滑な人間関係を築くことができます。特に訪問介護の場合は、ご利用者様の自宅、生活の場そのものに入らせていただき支援をさせていただくため、ヘルパーの人選には、気を使うことも多いです。しかし、1人1人のヘルパーの人柄、性格、得手不得手を把握することで、ご利用者様とのマッチングができており、今後もスタッフとの関係性を深めることで、よりよい事業所作りを目指したいと思っています。



〈ヘルパーステーション結の街〉スタッフ一同
後列中央が筆者

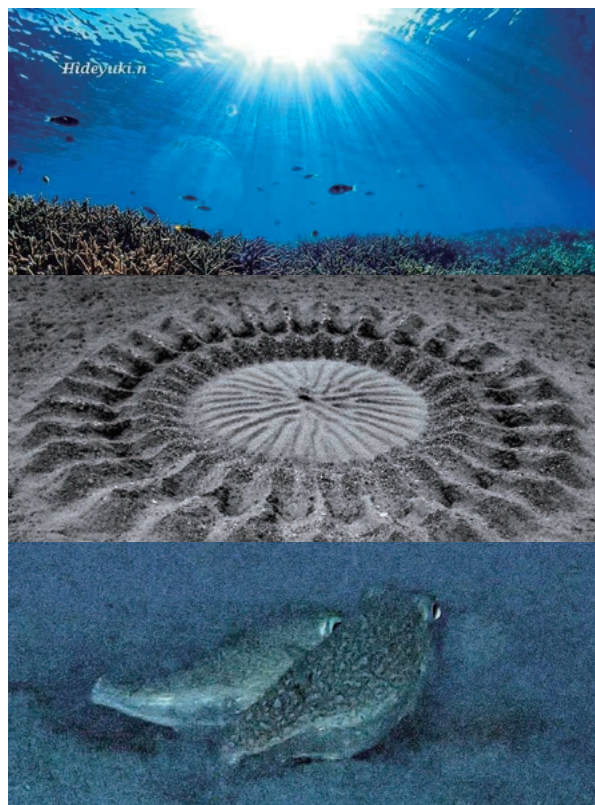
ダイビングの達人

奄美病院 介護福祉士

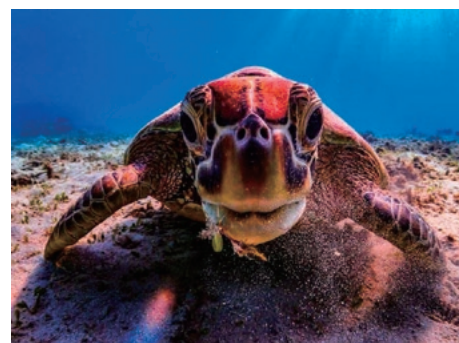
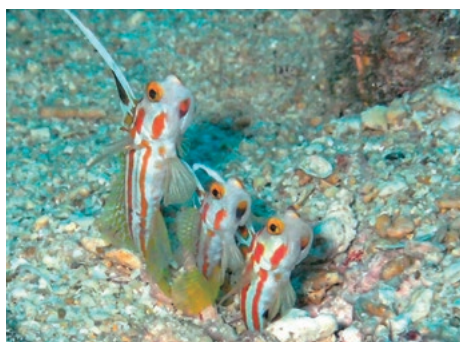
中山 秀之 さん



私が、初めてダイビングに興味を持ったのは、小学校の低学年だったと記憶しています。両親が大島紬販売の傍ら喫茶店もしており、その横の店舗がダイビングショップだったということもあり、小さい頃から身近に感じていて、いつか自分もダイビングをしてみたいと思うようになりました。学生時代にその夢は叶いませんでしたでしたが、大人になってもその気持ちに変わりはなく、ようやくダイビングにチャレンジすることが出来ました。初めての海の中は、水中で息が出来ることに感動。青く綺麗でカラフルな珊瑚や魚たちが出迎えてくれて、ダイビングをする度にその非日常的な魅力にハマっていきました。また、もっと上手になりたい、ダイビングを極めたい、ダイビングの良さを多くの人に伝えたいという思いからダイビングライセンスも取得しました。写真でもお分かりいただけたと思いますが、海底にミステリーサークルが出現することがあります。その正体は、アマミホシゾラフグのオスがメスの為につくる産卵床です。体長10cm～15cmの小さな体で、直径2m程のサークルをつくっている姿は、健気で感動します。ちなみに、このフグは2011年に発見された新種のフグです。海の中の世界は、まだまだ私の知らないことが、たくさんあります。新しい発見や出会いを楽しみながら、これからもダイビングを続けていきたいと思っています。最後に、10歳からでも体験ダイビングは出来ますので、機会がありましたら皆さんにも海の中の世界を、是非、体験して楽しんでもらいたいと思います。



アマミホシゾラフグ



(省略)



鹿児島中央看護専門学校便り

戴灯式



去る2022年10月4日、鹿児島中央看護専門学校第20期生45名が戴灯式を迎え、看護の道を志す者の仲間入りを果たしました。

戴灯式は、入学して約半年間看護の基礎を学び、その評価をもとに看護を職業として選んでいく決意を新たにするための一つの区切りとして行われるものです。もともとは「戴帽式」と呼ばれていたこの式典。現場でナースキャップを着けることがなくなった今、式典自体を行わない学校も増えてきました。

本校では2年前から「戴灯式」と式典の名称を変更し、看護師を目指す者としての自覚を促すため、本格的な実習が始まる前のこの時期に行っています。戴灯式では、ナイチンゲール像から蝋燭の灯火を戴き、自分たちで考えた誓いの言葉を唱和します。

第20期生は、看護に必要な知識・技術を身につけて、患者さんやその家族に寄り添えるような看護師になりたいという気持ちを込め、「責任」「向上心」「連携」「倫理観」「慈愛の心」という5つの言葉を誓いました。

時代の流れとともに、もとめられる看護師像も常に変化しています。学校での学習や病院での実習を通してたくさんのことを学び、経験して、一歩ずつ着実に20期生全員でそれぞれが目指す看護師像に近づいていってほしいと思います。

編集後記

奄美が世界自然遺産登録されてから早一年が経ちました。

お陰で、観光客も数倍増えました。

今回の「達人」は、奄美病院で「ダイビングの達人」を紹介させて頂きましたが、奄美には、娯楽が自然しかない為、みんなそれぞれ島の自然を楽しんでいます。

私も、カヌーやサップ、ダイビングにも挑戦しました。

若い時は、島の事を田舎で恥ずかしく思う時期がありましたが、年々、年のせいか(笑)島の事が好きになってきて、今では、奄美を誇らしく思っています。

皆さんも、是非、プライベートで奄美の自然を体験してみてください。

奄美病院 総務課 川上 あゆみ

達人 Professional

慈愛会報「プロフェッショナル」

2022年12月 Vol.30

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional 編集委員会

委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室

duties-support-room@jiaikai.jp



公益財団法人 慈愛会
<https://www.jiaikai.or.jp/>